自衛隊の現場

あまり知られていないお仕事

陸上自衛隊中央輸送隊

はじめに

今回は、中央輸送隊の紹介の機会をいただきありがとうございます。

一般的に輸送隊と聞くと、トラックやトレーラーなどを保有し、運転をして隊員や装備品などを運ぶ部隊をイメージするかと思いますが、中央輸送隊はそれとは全く違います。そんな中央輸送隊の仕事をこれから紹介しますが、その前に横浜駐屯地や部隊の沿革についてお話しします。

装軌車の船舶への積載調整

駐屯地の沿革について

横浜駐屯地は、昭和32年1月、横浜駅西側の小高い丘の上にある現在の場所を横浜防衛施設局（当時）が購入・整備して、第107特科大隊を駐屯させたことに始まります。その後、昭和41年3月、第107特科大隊の松戸駐屯地などへの移駐に伴い、当時、横浜市中区桜木町（市ヶ谷駐屯地桜木町分屯地）に所在していた中央輸送業務隊の前身である京浜港湾処理隊が移駐しました。

昭和58年3月、京浜港湾処理隊、青函地区輸送連絡隊および第391会計隊を編合した横浜を拠点とする中央輸送業務隊が誕生するとともに、平成30年3月に各方面輸送業務隊を編合して中央輸送隊として改編し、全国に隷下の部隊を有しました。そして、今年度、創隊5周年を迎えることができました。

中央輸送隊の活動などについて

中央輸送隊は、横浜駐屯地における主力部隊で、多数の輸送任務を有し、自衛隊で唯一の役務輸送および端末地業務の専任部隊として、陸・海・空自衛隊の各部隊に対する支援を行っています。そんな仕事の一部をこれから簡単に紹介します。

①国内における輸送

協同転地演習などに伴う輸送、誘導弾等輸送および全国物流便の運行・統制などを実施しています。

②わが国と外国との間の輸送

派遣海賊対処行動支援活動などの国外任務に伴う輸送、米国における射撃訓練などの国外訓練に伴う輸送を実施しています。

また、昨今の国際情勢を受け、ウクライナに対して供与される装備品などの輸送も実施しています。

③統合運用時における統合輸送

災害派遣などの統合運用時における輸送を実施しています。

④京浜港などにおけるFMS調達物品等の受領業務

米国などから調達した物品などを受領する際の通関の他、国内における受領部隊に対する配送業務を実施しています。

そして、これらの輸送の実施にあたり必要となるのが部外輸送力の取得です。それを取得するための運搬費は年間で約50億円（令和4年度）であり、陸上自衛隊全体の運搬費の約半分を中央輸送隊で執行している状況です。

また、手掛ける輸送は輸送区間が長距離となることから、空港・港湾などの結節となる場所において端末地業務の所要が発生します。

端末地業務においては、部隊および港湾などの関係者と調整しつつ、積載・卸下、検数・検量および役務監督・検査官業務を実施する他、国外輸送においては通関、出入国審査および検疫などの業務を実施しています。

いかがでしょうか。一般的に想像する輸送隊との違いがイメージしていただければ幸いです。

隊員の苦労（？）体験紹介

先ほど説明した仕事の他に、国外に輸送する貨物の点検などを行う「貨物幸領業務」があります。

簡単に説明しますと、貨物の荷崩れを防止するための固定の状況を定期的に点検したり、その輸送状況を中央輸送隊本部に報告する仕事です。その仕事に関する苦労体験の一例をご紹介します。

国外の訓練ともなるとアメリカ本土まで、契約した民間貨物船などにより装備品を輸送します。そして隊員は貨物幸領業務のため、一緒に貨物船に乗船し長期間の航海に臨みますが、戦車や航空機など、特殊な装備品は固定が難しく、多い時には100両を超える場合もあり、点検を終えるのに半日以上かかることもあります。

また、アメリカだと片道約2、3週間ほどかかりますが、この間、業務を続けなければならず、時には船酔いを我慢しながら奮闘し、入港時には4、5kgも痩せてしまった隊員もいました。

おわりに

自衛隊家族会の皆さまへ

横浜駐屯地は、大規模災害などが発生した場合、横浜市および川崎市地域においての派遣隊員の留守家族支援業務を担当し、神奈川県自衛隊家族会の皆さまをはじめ全国の家族会の皆さまのご協力をいただいております。そのご厚意に、この場をお借りして感謝を申し上げます。

今後、中央輸送隊隊員一同、厳しい訓練に精励し国民の皆さまの負託に応えられるよう精進していく所存でありますので、引き続きのお力添えいただけましたら幸いです。

中央輸送隊隊長
兼ねて横浜駐屯地司令
1等陸佐　山田　浩一

税関へ輸出申告をする担当隊員

北から南まで全国各地で入隊・入校式

札幌（北海道）
特技課程「准看護師」28人の入校式を挙行
学院長は「学院一丸」「日々前進」を要望

自衛隊札幌病院准看護学院（学院長・本間健一1等陸佐）は4月3日、北部方面総監部から医務官佐藤1等陸佐、人事部人事課長代理人事2班長阿部2等陸佐、防衛部訓練課長代理教育班長安達2等陸佐、方面隷下部隊から北部方面衛生隊長野澤1等陸佐などの臨席を賜り、多くの志願者の中から栄光を勝ち取り、全国から集まった第49期初級陸曹特技課程「准看護師」28人の入校式を挙行しました。

病院長に申告する隊員

入校式にあたり病院長（川口雅久陸将）は「本課程で養成される『准看護師』たる衛生救護陸曹』は、第一線から沿療・後送の各段階において、傷病者の救護・看護などを担うという重要な役割が期待されている。

また、先般の新型コロナウイルス感染症対応においても、部隊などにおける感染対策や健康管理、自衛隊大規模接種センター会場や職域接種会場におけるワクチン接種など、医療従事者の一員として、大きな力を発揮しました」と話しました。

さらに、学生に「自己鍛錬」「思いやり」の2つを要望し「修業における自己の目標を設定し、地道に日々研鑽するとともに、おのおのが目的意識と自発的な意欲を持ち努力を継続し、相互に刺激し合うことは諸官に大きな成長をもたらしてくれる。人の痛み、苦しみや悩みを感性深く受け止め、知識と技術に裏付けられた、人を思いやる気持ちが滲み出るような准看護師を目指してほしい」と訓示しました。

准看護学院長は「学院一丸」「日々前進」の2つを要望し「これまでの人生、部隊経験、ここ准看護学院を目指した動機はおのおのの異なるが、これからは、同期はもちろんのこと、教官・助教・先輩たちと『学院一丸』となり、自衛隊衛生の核である准看護師たる衛生救護陸曹となるべく『日々前進』し続けること」と式辞を述べました。

学生28人は、激励の言葉を心に刻み、決意を新たに准看護師となるべく教育に臨みます。

新町（群馬県）
21人、来賓家族の見守る中で入隊式
第12音楽隊の激励演奏会で華を添える

第12後方支援隊（隊長・橋詰勝常1等陸佐）は4月7日、駐屯地体育館において、多数の来賓および隊員ご家族を招待し、令和6年度自衛官候補生課程入隊式を挙行しました。

鎧兜と敬礼する自候生

制服に身を包んだ21人の自衛官候補生は国歌斉唱に始まり、松崎自衛官候補生（群馬県前橋市出身）の申告に続き「真心、自衛官として必要な知識および技能の修得に励むことを誓います」と宣誓をしました。

また、第12音楽隊の激励演奏会も実施し、会場に華を添えました。

執行者の橋詰隊長は「同期の絆を深めよ」「明るく・元気よく」の2点を要望し、将来の陸上自衛隊の一翼を担う隊員へと成長してくれるようにと式辞を述べました。

申告をした松崎候補生は「自衛官である父に憧れて入隊を志願しました。不安なことはたくさんありますが、精一杯頑張ります！」と力強く思いを話してくれました。

候補生たちは、決意も新たに約3カ月に及ぶ教育訓練に励み、知識と技能を修得するため新たな一歩を踏み出しました。

前川原（福岡県）
684人の幹部候補生の合同入校式を挙行
陸幕副長は使命感を確立せよと要望

辞令書を交付

陸上自衛隊幹部候補生学校（学校長・吉川徳等陸将補）は4月1日、第105期一般幹部候補生（防大・一般大卒）課程、第105期一般幹部候補生（部内）課程（前段）、第60期医科・歯科幹部候補生課程および第7期看護科幹部候補生課程の計684人の合同入校式を挙行しました。

入校式では、上田和幹陸上幕僚副長をはじめ、吉冨久留米市議会議長など多数の部内外来賓立会のもと、候補生に対する辞令書交付、候補生による任命申告、宣誓および入校申告が行われました。

吉川学校長は、式辞において「すべてを修養の場ととらえ、幹部候補生として為すべきことを為せ」と要望し「自分は何を為すべきかを常に考え、失敗を恐れず果敢に挑戦し、今の自分に何が足りないのか、どうすればもっと良くなるのかを真摯に反省し、自らの資質、知識、技能を高める不断の努力を継続してもらいたい」と歓迎の言葉を送りました。

続いて、陸上幕僚副長から「幹部自衛官としての使命感を確立せよ」「今に即応し、未来を創造し得る幹部たれ」の2点の要望事項と、「諸官一人一人が今に即応し、未来を創造し得る幹部となれるのか、常に自問自答を繰り返し、日常の起居を含め、あらゆる場を能力向上の機会と捉え、今に即応し、未来を創造し得る幹部となるべく自らを鍛錬してもらいたい」と期待の言葉が贈られました。

来賓を代表して吉冨久留米市議会議長からは「国民の生命・財産を守るため、そして、世界中の平和と安定に向けてご活躍を期待する次第です。つらく厳しい時もあるかと思います。そういった時には、この豊かな自然と多彩な美味しさを誇るグルメのまち久留米で、心身を癒し、困難を乗り越える力を養っていただければと思います」と祝辞が贈られました。

入校式を終えた候補生は、決意を新たに前川原での教育に挑むことになります。

高田（新潟県）
桜の花が咲き始めた中、入隊式を挙行
申告・宣誓を行い、自候生として踏み出す

第2普通科連隊（連隊長・末本紀彦1等陸佐）は、桜の花が咲き始めた4月7日、高田駐屯地体育館において「令和6年度自衛官候補生課程入隊式」を挙行しました。

入隊式は、八木智学上越市副市長をはじめ多数の来賓、隊員家族の参列を得て厳粛に執り行われた。

本年度は21人が入隊し、緊張感漂う中、1人ずつ名前が読み上げられ、告達が行われたのち、申告・宣誓を行い、自衛官候補生としての第一歩を踏み出しました。

末本連隊長は式辞において「陸上自衛隊を選択してくれた諸君を後輩として迎えることに歓びを感じるとともに、敬意を表する」と述べ、また「積極・連携」「安全・健全」「同期の絆」の3点を要望し、候補生の門出を祝しました。

入隊式終了後、候補生たちは家族とともに記念撮影など、和やかなひとときを過ごしました。

宣誓を行う自候生

岩見沢（北海道）
冬季戦技競技会を実施
隊員家族も応援、特に子供の声援が力に

第12施設群（群長・山下拓路1等陸佐）は2月20日、駐屯地および演習場において「令和5年度冬季戦技競技会」を実施しました。

子供の声援が力に

山下群長は本競技にあたり、積雪地に所在する部隊として必要不可欠な「体力・スキー技術」を向上させるとともに、先輩が後輩をしっかり育成する環境を作り、部隊の冬季戦技競技能力を効果的にさらに向上させるよう要望しました。

スキー競技会は中隊対抗の部（中隊の平均タイム）と個人の部（タイムの早い順）に分かれ約3kmのアップダウンの激しい演習場のコースを走りました。

天候が悪く吹雪でしたが、選手たちは全力を出しきり最後まで走りぬき、隊員家族も応援に来隊し、特に子供の声援がとても力になりました。

中隊対抗の部は第399施設中隊が優勝し、個人賞では、幹准曹の部第1位（第398施設中隊・門間3等陸曹）、陸士の部第1位（第398施設中隊・茨木陸士長）、令和5年度新配置隊員の部第1位（第398施設中隊・井上1等陸士）、女性隊員の部第1位（本部管理中隊・福島陸士長）が、それぞれの部において表彰されました。

この競技会を通じ、冬季戦技能力の向上および部隊の団結の強化また士気を高揚させることができました。

第12施設群は、さらに練度向上を図るため、日々訓練にまい進してまいります。

守山（愛知県）
国交省中部地方整備局と協定締結
相互に情報共有が可能な態勢が整う

佐藤局長（左）と酒井師団長

第10師団（司令部・守山駐屯地）は3月29日、国土交通省中部地方整備局（名古屋市）において、中部地方整備局長（佐藤寿延氏）と第10師団長（酒井秀典陸将）との間で「大規模災害時の情報交換に関する協定」を締結しました。

この協定は南海トラフ巨大地震などの大規模災害を想定し、災害発生時に中部地方整備局と第10師団相互の円滑な連携を具現化するためのもので、平成24年2月に締結した協定を改定し締結したものです。

今回の締結に伴う一番の改定内容は、中部地方整備局と第10師団司令部の両庁舎間で災害に派遣する連絡員用の通信回線を相互に整備したことです。この通信回線により、陸上自衛隊の隊員が派遣先の国土交通省の庁舎内で、自衛隊の各種システムや内線電話が使用できるようになったほか、第10師団司令部においても国土交通省の防災端末（映像情報共有化システム※1およびDiMAPS※2）が使用可能となり、相互に情報共有が可能な態勢が整いました。

これにより発災時に災害派遣部隊の指揮にあたる師団長が国土交通省のライブカメラやDiMAPSから現地の被災状況を守山駐屯地においてリアルタイムで把握できるようになり、状況判断が速やかにできる環境が強化されました。

第10師団は、今後も中部地方整備局と協力連携し、大災害への備えを万全に整え、師団地区内の民生の安定にまい進していきます。

※1道路や河川に設置されているライブカメラを電子地図上から選択閲覧できるシステム。

※2国土交通省が各種災害情報の把握に用いるシステムで、土砂崩れなどの発生情報や、道路、水道などの各種インフラの現況のほか、航空機や車両（人員）が収集した写真などをリアルタイムで把握可能。

青野原（兵庫県）
第302高射運用隊を新編
対空戦闘指揮統制システムを導入

第8高射特科群（群長・栗田千寿1等陸佐）は3月中旬、第302高射運用隊を新編し、群の部隊改編を行いました。

栗田群長が編成完結を宣言し「302高射運用隊が新編、対空戦闘指揮統制システム（ADCCS）が導入され、第8高射特科群はさらに強化されます。編成完結を迎えられたことは、群長として至上の喜びです」と冒頭で述べました。

そして「本日の運用隊新編により、8高群は強化されましたが、本当の意味でわれわれが強くなるために群長はじめ、群本部、各中隊、そして高射運用隊の一人一人が、それぞれの持ち場で能力向上すること、これに尽きます。一敵に勝てる8高群」を目指して、共に頑張っていこう」と締めくくり、第302高射運用隊長（高橋3等陸佐）へ運用隊の指揮を命下しました。

群長から隊旗の授与

初代第302高射運用隊長は「部隊の戦力化に向けて創意を重ね、群本部および各中隊並びに他師旅団高射部隊と密接な連携を図り、ここにいる高射運用隊の隊員全員が一丸となって練成に励み、いかなる状況においても任務を完遂し得る部隊に育成することをお約束する」と決意表明しました。

「第302高射運用隊」という新たな力が加わり、体制が強化された第8高射特科群は、国民の安全と安心を守るためさらに精強な部隊を目指し、任務にまい進します。

桂（京都府）
「桂駐屯地さくら並木公開」を実施
天候にも恵まれ約6400人の方々が来場

ライトアップした夜桜を楽しむ来場者

桂駐屯地（駐屯地司令・吉岡正孝1等陸佐）は3月30日と31日の両日、地域の方々の駐屯地に対する理解と信頼を獲得するとともに、親近感の醸成並びに隊員および家族の融和団結を図ることを目的に、駐屯地を一般開放する「桂駐屯地さくら並木公開」を実施しました。

当日は桜をバックにした装備品展示や高校生による音楽演奏、スタンプラリー、ライトアップによる夜桜など、子供から大人まで多くの方に楽しんでもらえるイベントを開催しました。

桜の開花状況は二分咲き程度と満開とはなりませんでしたが、天候にも恵まれ約6400人の地域の方々が来場し、駐屯地内は活気に満ち溢れた2日間となりました。

桂駐屯地は、引き続き「地域との連携」を具現するため地域に根差した活動にまい進します。

北部航空方面隊
5年ぶりに北海道での開催
圧巻の演奏を披露し、大歓声と拍手に

北部航空音楽隊の定期演奏会

北部航空方面隊（司令官・亀岡弘空将）は3月2日、札幌コンサートホールにおいて北部航空音楽隊第43回定期演奏会を開催しました。

北海道での開催は平成31年（札幌文化芸術劇場）以来、実に5年ぶりとなりました。

当日は、約3000人の応募の中から抽選で当選した方に演奏を楽しんでいただきました。

演奏会は2部構成であり、第1部は「空から宙（そら）へ」と題し、今年創立70周年を迎える航空音楽隊が、これまでの「空」から「宇宙」へと活動範囲を広げ活躍するイメージの楽曲を演奏。第2部では「舞台芸術への誘い」と題し、一度は聞いたことのある映画音楽などで会場を魅了しました。

豊浦音楽隊長の指揮のもと、航空自衛隊行進曲「空の精鋭」に始まり、アンコール2曲を含む全10曲の圧巻の演奏を披露し、会場は大歓声と拍手に包まれ、感動と興奮の中、幕を閉じました。

漢字あそび 第19回

問題・類義語・対義語は難しい？

初級

知らないとちょっと恥ずかしい

・類：高慢：□□
・対：高慢：□□

中級

意外とやっかい

・同音異義語：コウショウ
・同音異義語：キセイ

上級

自慢できるかな

・対：永住・□□（カクウ：仮に住むこと）

（解答は、7面に）
（出題・解答・LUCKY）
※数字：頭の体操はお休みします。